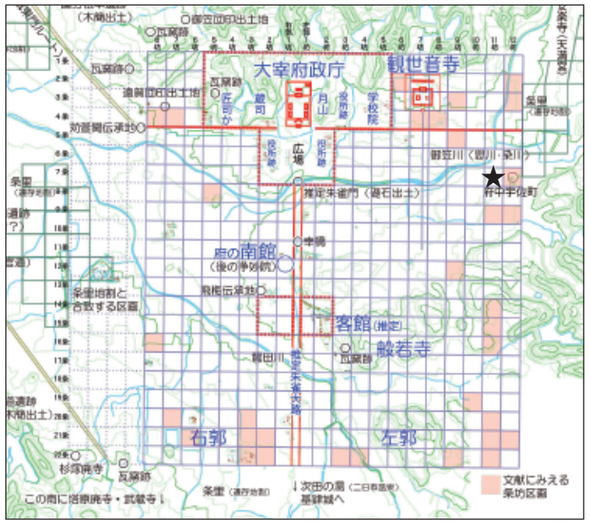
発掘現場から 文化力 POWER OF CULTURE

大宰府条坊跡第332次調査 現地説明会資料

太宰府市文化財課
2019年10月26日（土）

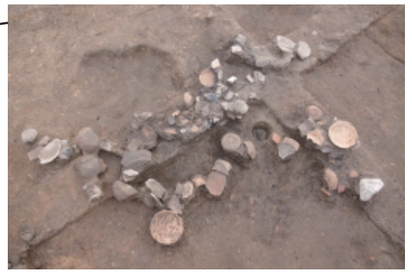
大宰府条坊跡は、大宰府政庁前からのびる朱雀大路の東西に碁盤の目状に道路によって土地が区画された古代の都市遺跡です。朱雀大路の東側を左郭、西側を右郭と呼び、南北方向の道を坊路、東西方向の道を条路と呼びます。一区画は約 90m四方で、それぞれ「〇条〇坊」と現在の住所のように場所を表すことができます。



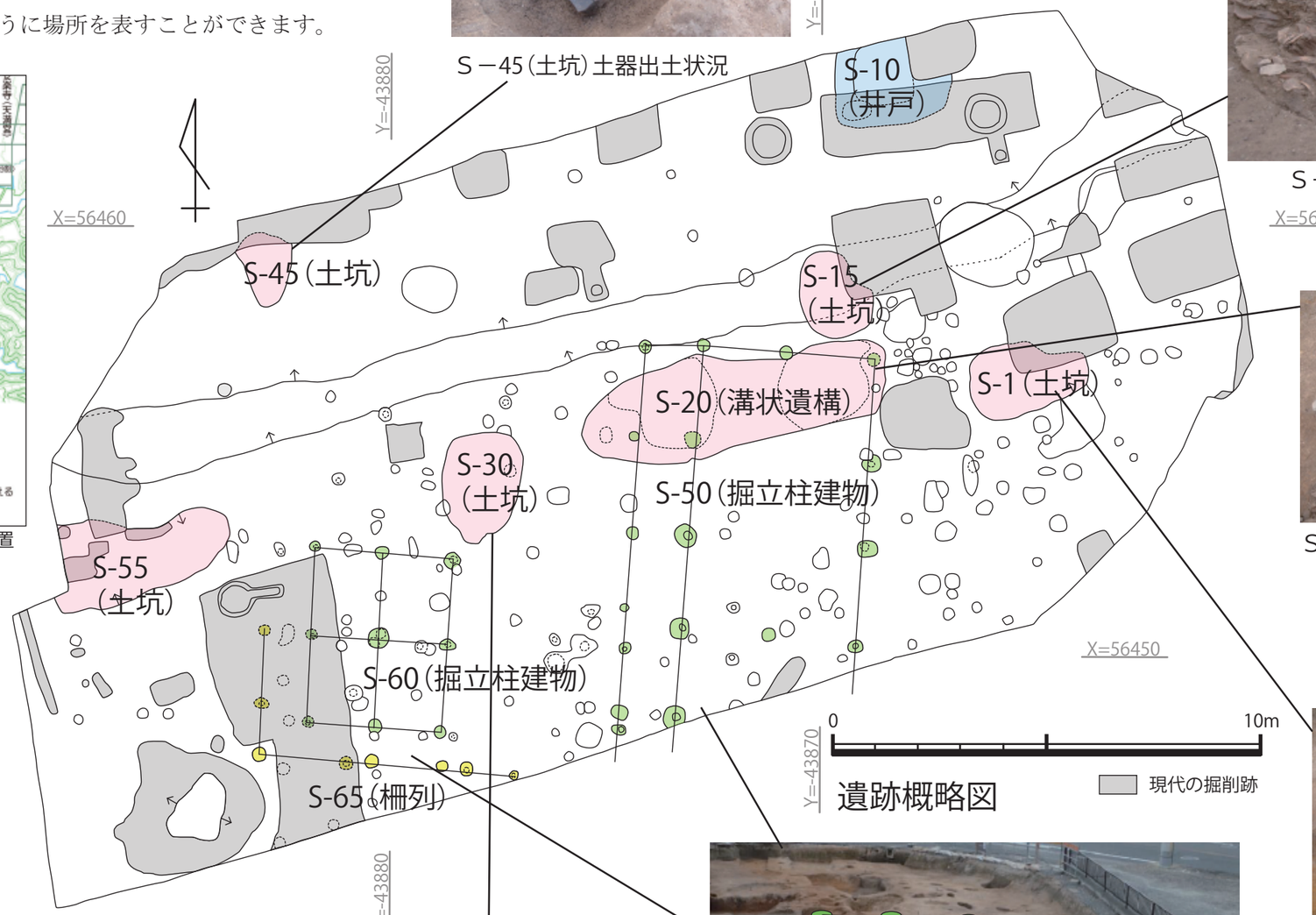
大宰府条坊復元図　★332次調査地の位置
「まるごと太宰府歴史展」図録より

S－45（土坑）土器出土状況

S－15（土坑）土器出土状況



S－20（土坑）土器出土状況



S－1（土坑）掘削状況

調査の概要

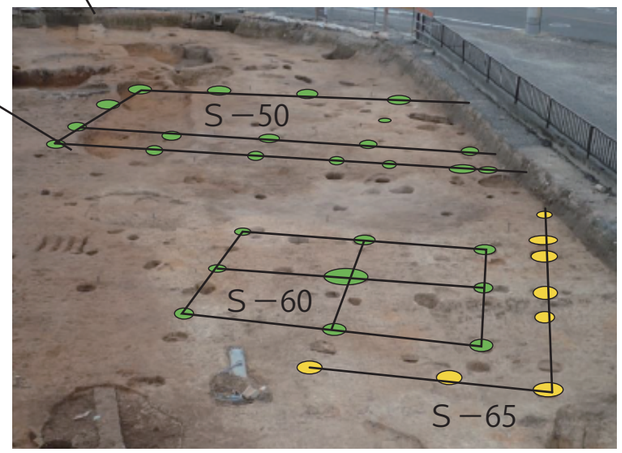
調査名：大宰府条坊跡第 332 次調査
所在地：太宰府市五条二丁目地内
調査主体：太宰府市教育委員会　文化財課
調査期間：令和元年８月８日～

今回の調査地は左郭７条 11 坊の中央にあたり、条坊の東端に近い区画です。

調査では掘立柱建物２棟、柵列１基、土坑５基、溝状遺構１基、井戸１基、そのほか多くの小穴が見つかっています。

遺構からは素焼きの土器や青磁・白磁、銅銭が出土しました。これら出土した遺物から、平安時代後半～鎌倉時代（12 世紀～13 世紀代）であることがわかりました。

S－30（土坑）銅銭出土状況



S-50・60（掘立柱建物）、65（柵列）検出状況